

資料写真：【1】〔君臣之證狀〕（部分、河越卿家文書12）／【2】〔坂十郎左衛門様上叩大谷組絵図〕（二瓶八郎家文書242）／【3】〔河越家宅相図〕（部分、河越卿家文書930）

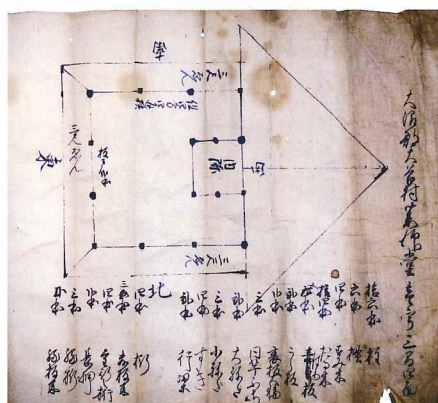
只見線復旧応援

奥会津の古文書

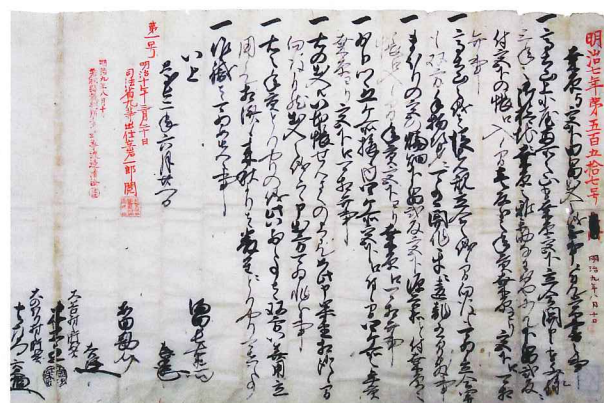
— 三島町を中心に —

福島県歴史資料館では平成29年(2017)度より、只見線が早期に復旧復興されることを応援するため、奥会津にゆかりのある古文書をシリーズで取り上げてきました。この展示では、三島町に関係の深い古文書を紹介し、地域の特性を分かりやすくみていきます。

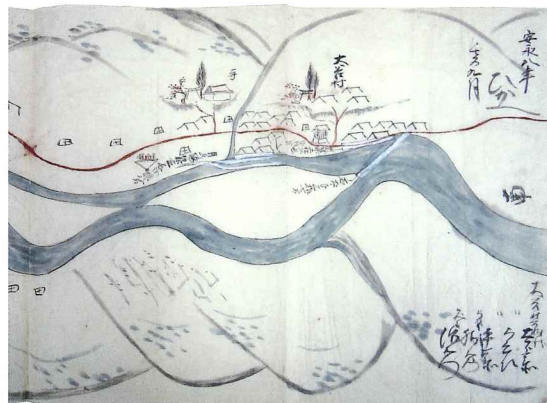
江戸時代から明治時代にかけての只見川や大谷川沿いの村々の概況、蒲生氏による村落支配、漆や蠟の生産、山をめぐる領有権争いや水害の状況、山村における信仰と文化、戊辰戦争の様相などを古文書より具体的に明らかにします。



▲ 大沼郡大谷村薬師堂差図 (部分、二瓶八郎家文書 399)
大沼郡大谷村薬師堂(三島町大谷字堂免)は、貞享元年(1684)の大雪のため押し潰されました。元禄7年(1694)3月1日、大谷村郷頭・肝煎などが三間四面からなる宝形造の薬師堂の再建を田島代官所へ願い出ました。



▲ 蒲生秀行家奉行人連署裁許状 (部分、河越卿家文書 700)
慶長2年(1597)6月21日、大沼郡桑原村(三島町桑原)と同郡宮下村(同町宮下)が山の焼畑の出入りについて争ったため、蒲生秀行の奉行人が連名で裁許を下し、近隣の村々の肝煎9名が保証人になっています。



▲ [大谷村^{かわよけ}川除御普請目論見絵図] (部分、二瓶八郎家文書 319)
大谷川に設けられた川除を描いた大谷村(三島町大谷)の絵図で、安永8年(1779)9月のものです。川の白い部分は、石土手・道築立などの堤防で、北流する大谷川はよく氾濫して、村に被害をもたらしました。



▲ 会津細見絵図 (部分、馬場篤家文書 1)
江戸時代後期に小田切尚記が描いた会津藩領内の絵図で、村々は組ごとに色分けされ、中央部の雲形の群青は沼沢湖です。村名は小判形に記され、現在の三島町は青の一部・茶の一部・白の一部です。